

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター心愛つう		
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日		～ 令和7年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	令和7年11月1日		～ 令和7年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月30日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ラインでも手紙でも、すぐにやり取りができるのでこちらも安心しているただいています、子供の状況に応じて対応いただいています事業所から、小さなことまで連絡をくれるのでありがたい。	送迎時、LINE、電話、面談等で職員から、細かく連絡を入れるようにしている。	今後も、詳細なことにもついて、保護者に連絡が取れるよう工夫をしていく。
2	面談等で細かな健康や発達、就学についての相談がしやすい。	日々の送迎時でのお話、LINE、電話、面談等で、小さなことでも聞けるよう、話しやすいようにしている。	日々の送迎時でのお話、LINE、電話、面談等で、日々の療育での様子だけでなく、家で抱えている課題など、話しやすい環境や機会を多く持つようにする。
3	保護者会や父母座談会のような機会があってもいいと思います	土曜活動日の中で子供たちと保護者で取り組める内容や場を設けるようにしてきた。	土曜活動日の中で子供たちと保護者で別々で話(交流)ができる時間、場を取り入れられるか考えていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニングにさせていただく機会がありますが、情報提供の機会は少ない。	ペアレントプログラムについては、参加を呼び掛けたが、実施が5回あり、参加の負担が大きい。たくさんの方に実施していただけるよう工夫が必要。	年間の面談の時期、参観週間の時期、ペアレントプログラムの計画、ペアレントプログラムの個別での相談など、面談等で伝える機会を設けていきたい。
2	災害についての取り組みで、保護者に周知されていることが少なかった。	災害マニュアルについては、確認がされているが保護者にしっかり伝わっていなかった。保護者と共に災害についての対応について考えていく機会がなかった。	災害発生の訓練について、保護者の意見を取り入れながら、訓練を実施し、保護者と共に対応していきたい。
3	地域交流などの取り組みが少ない。	地域での取り組みが少ない。地域での交流はないことはないが、同年代の子同士の交流までの取り組みまで考慮できなかった。できることから取り組めるようにしていきたい。	年度計画の中で、取り組みそうな、心愛つうとの交流などやれそうことから計画をして取り組んでいく。月の土曜日での活動で、地域の方や保護者の交流、きょうだい同士の交流などの活動も取り入れていく。